



シルバー通信

第 45 号（平成 26・27 年度）

発行：大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会

連絡先（理事長宅）：

〒567-0832 吹田市山田東 1-31 A618

FAX： 06-6877-1509

ホームページ URL <http://sa-renkyo.sakura.ne.jp>

新任のあいさつ

SA連協 理事長 笹原 義正（SA 吹田 平成 22 年）



4 月に就任しました笹原です。微力ながら大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会（以下、府 S A 連協と表現）の健全発展に努めますので皆様方のご支援を賜ります様宜しくお願い申し上げます。

今年度の府 S A 連協の活動方針について説明し新任のご挨拶と致します。

府 S A 連協の平成 27 年度活動方針は『地区 S A 再生への貢献』です。

これは、先ず各地区 S A を取り巻く環境がここ数年大きく変わったことから説明します。その結果、各地区 S A への入会者の激減となりました。具体的には平成 21 年に新しい老人大学校が閉校新しく設立された N P O 法人大阪府高齢者大学校（以下、高大と表現）の S A 養成講座に引き継がれましたが、授業の有料化その他により S A 修了生が毎年減少した為、各地区 S A への入会者が比例して激減しました。その結果各地区 S A の会員の高齢化が進み、同組織の維持や活性にも大きな影響が生じ今日に至っております。環境が大きく変わっているのに、府 S A 連協もその変化に対応しなければ時代に取り残されてしまいます。

今年度の新役員で危機感を共通認識

上記危機感を共通認識した上で、今年の活動目標を各地区 S A に寄与する本連絡協議会にしようとし、標語として『地区 S A 再生への貢献』とした次第です。

具体的アクションとしては、議決書に記載しておりますが次の通りです。

①各地区 S A の現状把握とその課題解決に取り組む。各地区 S A の現状と課題を把握することから始めて、その課題解決に協力・取り組みをする。

② S A 認定機関の府高齢者介護室、高大、O N C C（N P O 法人大阪府北部コミュニティカレッジ）等にこちらから出向き S A 入会者を増やす取り組みをする。

・大阪府高齢者介護室に出向き、地区 S A の厳しい現状を説明しその対策について支援を求める。

・高大や O N C C には待ちの姿勢ではなく、インターンシップなどの地区 S A との交流授業をこちらから企画提案をしていく。

①従来から人気のブロック交流会や各地区 S A に喜ばれる活動を模索し具体化にこぎつけたい。

また、必要に応じ助成金も取得する。

今年単年度で劇的な成果を求められても難しいですが、牛歩でもいいから兎にも角にも前に進もうと役員で決めましたのでご理解とご高配をお願いいたします。

各地区 S A の皆様へ

地区 S A の会員に府 S A 連協の活動が見えるようになりたいと思います。それが引いては地区 S A に寄与する活動にも繋がると思いますので、皆様方から各地区 S A の理事さんを通じて府 S A 連協にいろいろな提案をお願いします。先ずはそこから始めましょう。



就任期間 3 年をふり返る

平成 26 年度 理事長 松本 勉 (SA 茨木 平成 20 年)

この度 3 年間の任期を終了し、笹原新理事長にバトンタッチすることになりました。在任中には、会員の皆さまがたには色々のご支援ご協力を頂きましたこと厚くお礼申し上げます。

地区 S A の結束と独自性尊重

就任 1 年目の当初には、一部の府連協理事による第 2 府連協設立が地区 S A 会長に対して呼びかけられるという異常事態が発生しました。幸いにもこれに応じる地区 S A は 1 地区もなく、無事に船出をすることが出来ました。

また同じ年に高大からの提案で、既存の高大 O B 組織の一元化（地区同窓会と地区 S A の統合化）という問題については、全理事で真剣に検討し議論した年でもありました。

各地区 S A の設立の歴史やとりまく環境の違い、会則・会費の違いといった地区 S A の独自性を尊重する立場から、一気に一元化する事には反対の立場を表明し、名称を統一し新しく発足する高大 O B 諸団体による連合組織「校友会」に加盟することに落ち着きました。

WAM からの助成金の認定

2 年目には、支援活動担当理事のご尽力により、厚労省系独立行政法人「福祉医療機構」から認知症患者とその家族の支援活動として S A 連協歌体操が助成金活動として認可されました。

このことは、S A の象徴的活動の一つである歌体操が公的機関から認められたことと同時に、地区会員が連協に集結し学んだことを、地区に持ち帰りそれぞれの地区で広げるというモデル事業として、大変意義深いものであったと考えております。

参加ご協力を頂きました歌体操部会の皆さま、中央研修会に参加の地区会員の皆さまに厚くお礼申し上げます。

運営資金不足の下で新しい活動の試み

3 年目には、連協理事からの提案で地区 S A の皆さんに呼びかけて、おもちゃ作り活動で他団体のイベントに参加し、出店受託料を受けました。参加いただいた会員の皆さまからは、一部を府連協に寄贈して頂きました。このことにより、きわめて厳しい府連協の活動運営費の一助とさせて頂きました。

地区でのおもちゃ作り活動においては、手弁当が当たり前であり、また参加料も無料開催として実施してきました従来の世代間交流活動のやり方に、一石を投じるものでありました。

また企画委員会においては、歌体操部おもちゃ部とそれぞれに、部会活動費として部会費を徴収する試みが実施されました。

昨今の組織運営資金の逼迫する状況下においては、各活動での資金調達策について今後も引き続き検討の必要があるものと痛切に感じております。

最後に、府 S A 連協の今後の益々の発展と全会員の皆さまのご健康を祈念して、退任の挨拶とさせていただきます。

長い間ご協力ご支援を頂きありがとうございました。

平成 26 年度府 S A 連協活動のまとめ

事務局

事務局長 森田 一夫 (SA とよなか平成 18 年)

連協の活動に具体については、各部会等ら報告されるが、事務局としてのこの一年間の活動をまとめてみた。

1. 地区 S A 間の交流支援

連協の活動の一つとして「地区 S A の組織強化、地区 S A 相互間の調整」を掲げている。それを具体化するために北、中、南の 3 ブロック制を設けて「歌体操部会」、「おもちゃ部会」のブロック交流会および全地区上げての「大阪府 S A 連協歌体操フェスタ 2015」を実施した。

「歌体操部会」、「おもちゃ部会」、「ブログ研究部会」・「福祉 I T 部会」・「都市環境部会」等の部会へ参加することによって地区 S A を越えた交流をすることが出来ることによって、一定の成果を得ることができた。

また、今年度も支援活動部の尽力で、厚生労働省系の（独法）福祉医療機構（WAM）よりの助成金で「認知症患者とその家族を支援する」という S A 本来の社会貢献活動を推進できた事と同時に「歌体操中央研修会」を通じて、府 S A 連協と地区 S A との繋がりを強めることができた。

地区 S A の中には連協に加入することのメリットもないならば脱会もありかとの声が出ることもあると聞かれるが、このような活動に参加されて連協の意義を感じてもらいたい。

2. 組織運営について

① 組織の見直し

これまでは渉外・企画・広報の 3 委員会と支援活動部の体制できた。

これを渉外部、交流活動部、広報部の 3 部体制に改めることを提案することとした。

企画委員会は、歌体操とおもちゃの活動を企画し、実行するということが主となり、連協全体の企画を担当するものではなく、会員の交流を担うものなので「交流活動部」とする。

企画という文字が消えることに疑問の声もあったが、役員会そのものを企画部門と看做すこととした。

広報委員会は、活動に参加する方が少なくて運営が厳しい状況が続いている。広報は会員向けの情報伝達のみならず、外に向けての P R にも重要なものであるが、ホームページやブログと言った電子化されたものとなり、日頃これらを利用されない方たちと活用される方たちの間の情報格差が大きくなっているが、それが致し方ない時代になってしまったようである。

② 会則の見直し

現行の会則では、役員と役員会メンバーが異なったものになっているが、役員会メンバーを役員として選んでいるのが実態である。この実態に合わせることを、上記の組織見直しを反映させることとし、会則の見直しを行なった。

5 月理事会で承認された改定後の会則は、連協のホームページをご覧ください。

渉外委員会

渉外委員長代行 森田 一夫 (SA とよなか平成 18 年)

当委員会は、26 年度の活動計画を定めるにあたって、活動目的を行政機関や外部関連団体との情報交換と友好関係維持を図り、大阪府 S A 連協として地区 S A 活動に寄与するとした。

1. NPO 大阪府高齢者大学校関係

① 校友会への参加

平成 25 年 1 月に高大修了生の受け皿なるものとして校友会が設置され、現在は府高大同窓会連協・府 S A 連協・同期同好会・NPO 法人シルバーアドバイザー・ネット大阪が加入している。

毎月一回高大関係者を含めての会議では、受講生との交流を図るための行事の企画等が検討され、府 S A 連協はスポーツ交流会や高大祭等のビックイベントに参加した。

受講生向けに校友会参加団体を P R する共同機関紙「れいんぼー・絆」の年 4 回発行にあたっては、広報誌部会が協力した。

② 大阪府高齢者大学校との協力

S A 連協と大阪府高齢者大学校との連携が遺憾ながら非常に疎になってしまった。カリキュラム編成にあたって協力していけるように高大と直接の接触をして行くことが望まれる。

26 年度受講生に対して府 S A への入会勧誘活動は、本科生の共通講座の前にプレゼン、S A 養成講座のの教室に出向きプレゼン、S A 養成講座 3 コースの成果発表会に参加しての入会勧誘さらに大阪国際会議場で行われた修了式会場にて入会勧誘を行なったが、成果は少なかった。

校友会を通じてでは、本科生に重点が置かれることや受講生の個人情報が開示されないため、各地区 S A が個別に対応することが困難になっていることが大きな要因と思われる。

③ 区民カレッジ

大阪市内 5 ケ所で開設された区民カレッジの修了式では、大阪市 S A 連協にも入会説明の機会が与えられ、10 名の申込受付をすることができた。

区民カレッジにおいても大阪府高齢者大学校と同様に早い段階からの交流が望まれる。

2. NPO 大阪府北部コミュニティカレッジ(ONCC)関係

一昨年新しく開校した ONCC に設けられた S A 講座は、2 年制の課程を終えた修了生を送り出すことになったので、北ブロックの地区 S A が主となって対応したが、地区 S A への入会は少なかった。高大同様に、早い段階で S A 活動の意義の理解を得られるような取り組みを行く必要がある。また、S A 認定コースに拘らず、他の学科も対象に考えるべきかと思われる。

3. 大阪アクティブシニア協会

アクティブシニア 2014 が平成 27 年 3 月に大阪市北区民ホールで開催され、演芸部門には連協として歌体操に出演したほか、展示部門では、福祉 I T 部会が、授産所作品頒布スペースの提供を受けて、成果をあげた。

4 NPO 法人シルバーアドバイザー・ネット大阪

今年度は「認知症予防講座」について参加 P R に協力した。また前年度まで共催していた「中級おもちゃ教室」をネット大阪所管の「おもちゃ教室」とし、S A 連協も参加した。

企画委員会

企画委員長 下田 英二 (SA 箕面・豊能 平成 22 年)

活動の目的	活動計画
①各地区 S A 相互の交流を活性化し、親睦を図る。	→ 企画委員会の 組織力の強化を図る。 → 部会活動とブロック交流会を実施する。 → 「歌体操」「おもちゃ」に特化せず 新しい活動を確立する。
② S A連協の 財政改善に寄与する	→ 交流活動の一部を有料化する。

※ 企画委員会 (北 B=4・中 B=3 名・南 B=3 名)

具体的活動	結 果
※企画委員間のコミュニケーションアップと 会議の充実。	・ 毎月 1 回企画委員会を開催し、課題や、連絡事項の早期 対応を図った。 e x : 中地区歌体操交流会の件や部会の会費制の件、A T C 親子フェスタの参加
※部会活動 「歌体操部会」…別紙参照 ・ 月 1 回 (第 4 月曜日) 開催する。 「おもちゃ部会」 ・ 初級おもちゃ部会は偶数月 1 回 (第 2 火曜日) 開催する。 名称「おもちゃ部会」とし、部会員の決まる 6 月を初 回の部会とする。 ・ 中級おもちゃ部会は企画委員会の部会から参加する。	→ 別紙参照 → 6 月開催を 1 回目の部会とし 4 月までを H 2 6 年度とし ・ 部会員の連絡網を作成し、部会運営の効率化を図った。 ・ → 昨年度に比べ参加者が少ないのは、場所確保に開催日 変更が多かったのが原因か次年度の検討課題。 → 「おもちゃ教室」の名称で、S A ネット大阪へ「運営を 移管した。
※交流会活動 ・ 歌体操・おもちゃのブロック研修、交 流会と「フェスティバル」を開催する。	※歌体操は ①ブロック別交流会。 ② S A連協「歌体操フェスタ 2 0 1 5」を開催。 ③ アクティブシニア協会の「フェスタ 2 0 1 4」に参加した。 → ブロック別交流会は昨年度より参加者は増加、特定の地区 S A の参加 だけでなく、他の S A への普及も必要である。 ※おもちゃは ①ブロック別交流会を開催し② A T C 親子フェスタに参 加した。(A T C 参加の為、連協フェスティバルは中止とした)
※他活動の検討 各地区 S A のブログや昨年度のアンケート等 から検討する。	委員会で検討した結果、「カーリンコン」の普及を決め、 理事会前・中央研修会后、カーリンコン研修交流会を行った。 → 参加者確保のための広報を行う。 → インストラクター取得者を増やし、カーリンコン同好会の活性化を図る
※交流活動の有料化 (金額は検討) ・ 歌体操部会、おもちゃ部会 ・ 歌体操ブロック研修交流会 ・ おもちゃブロック交流会など。	・ 年初の各部会で有料化の説明をし、各部会とも快諾。 歌体操 1 0 0 円、おもちゃ 2 0 0 円/人で、財政改善に寄与できた。 ・ ブロック交流会で会費徴収は見合わせた。 → 次年度も部会費徴収の継続を行う。

歌体操部会

歌体操部会長 藤川 安高 (SA 吹田 平成 19 年)

歌体操部会は中央研修会での技術習得と毎月部会の会議の後、ブロック毎の実技の研修を行っている。各地域の施設での座位実技も動作が増えだんだんと向上してきた。

ブロック交流活動(北・中・南)では地域の交流会も段々と賑やかに実施出来るようになり、各ブロック内の交流を図り親睦を深めることが出来ている。また地域の歌体操グループを見学することにより地域の事情もだんだん分かってきた。

● 歌体操部会の主な活動

①歌体操部会 (定例会)

4 月から月 1 回 10:00~12:00 に開催し、前半 1 時間を会議、後半を研修に充てて部会員の情報交換・研修会を実施。年に 1 回各ブロック交流会と歌体操フェスタを行っている。

②昨年度地区別ブロック交流会の活動内容 参加者 (3 ブロック計 402 名)

- ・南ブロック ●参加者(130 名) 26 年 9 月 26 日(金) 13:00~15:30 (藤井寺市市民総合民館)
- ・中ブロック ●参加者(120 名) 26 年 10 月 10 日(金) 13:30~15:30 (大阪市北区豊崎東会館)
- ・北ブロック ●参加者(152 名) 26 年 12 月 2 日(火)13:30~16:00 (池田市保健福祉総合センター)

③歌体操フェスタ 2015 ●参加者(424 名) 27 年 3 月 6 日(金) 11:00~16:10

(大阪市北区民センター)

●今後の課題

歌体操を地区に広めて行くためには、新旧の会員の交流をなお密にして、実技の向上を図ると共に、空白地域役員の歌体操を理解、協力する必要が欠かせない。ブロック交流会およびフェスタを開催する場合、参加者が増えるにつれて広い会場が要望されてくる。



おもちゃ部会

おもちゃ部会長 島田 道子 (SA 守口 平成 14 年)

大阪府 S A 連協としておもちゃづくりの情報交換やスキルアップを目的とし、2 ヶ月毎におもちゃ部会を実施した。前年度までの「初級おもちゃ教室」を 26 年度 6 月 (初回) から「おもちゃ部会」とし、偶数月の第 2 火曜日が活動日になった。8 月はお盆休みになり、2 月まで 4 回、5 回目の 4 月は 27 年度に実施した。26 年度より参加者から参加費を毎回 200 円徴収し、運営経費の一部に充当した。

☆活動会場 大阪社会福祉指導センター地下 1 階 偶数月第 2 火曜日 13:30~15:00

活動月日	作 品	講 師	参加者
6 月 10 日	タンバリン (牛乳パック)	いずみ S A 中川明子	11
10 月 21 日	おすわりかえる	S A 八尾柏原 井上勝	13
12 月 2 日	はしれとなかい (サンタ)	S A 大阪 篠田彰子	9
2 月 10 日	びっくり箱 (ミニ)	S A 守口 島田道子	15
4 月 7 日	バルーン	いずみ S A 中川明子	9



☆ブロック別交流会	開催日程	会 場	参加者
南ブロック	10 月 29 日	松原市民ふるさとぴあプラザ	27
中ブロック	11 月 3 日	府立寝屋川公園のフェスタに参加者	400
北ブロック	11 月 22 日	茨木市市民会館	大人 145 小人 115

*南ブロックは、会員間でのスキルアップ研修会なので、参加者は全会員。

他地区は、来場された方が参加者となり、開催の趣旨が異なっている。

☆ATCおもちゃフェスタ 11 月 1 日～11 月 3 日

3 日間の担当を 3 ブロックに分け、多くの会員が参加した。結果、多くのおもちゃづくりの S A 会員と交流出来た事と、共に、多くの子ども達との出会いがあり良かった。今後はこの様なフェスタ・イベント等におもちゃ部会として参加し 部会の中が広がれば良いと期待している。



☆おもちゃ教室 (中級おもちゃ教室) 大阪市立大淀コミュニティセンター 奇数月第 3 火曜日

・平成 26 年度 6 回の実施 ・作品 ①おりがみオーム ②知恵の板 ③かわり屏風はねがえる、草木遊び ④レンジャーマン ⑤金魚 ⑥ランドセル

広報委員会

広報委員長 織田 武文（堺 SA 連協 平成 23 年）

活動目的

- ・大阪府 S A 連協と地区 S A の架け橋となる広報活動を目指して複数のメディアを使ってきた。
- ・地域での S A 活動の知名度（認知度）の向上を図ってきた。

活動報告

1. タイムリーな広報については、ホームページ・ブログ等の W e b 情報を活用する。
2. 共同機関誌「れいんぼー・絆」の発行に参画してブロックの活動状況を広めた。
3. 広報誌「シルバー通信」は内容充実のため 5 月以降に発行する。
4. 連協の活動を紹介する P R 誌の作成と活用を図り、情報交換に寄与できた。
5. ボランティアポータルサイトを目指すという目標は未だ道半ばである。

・広報誌部会

①広報誌発行 ・校友会誌「れいんぼー絆」 ・シルバー通信発行

＊年 1 回発行予定も新年度計画も網羅した内容充実に決定。新体制固まる 5 月以降発行

②対外 P R チラシ発行及び対外プレゼン。

NPO 大阪府高大文化祭 ・NPO アクティブシニアフェス ・地区 P R チラシ作成推進

・ブログ研究部会

地区の活動紹介のブログ充実のための部会とホームページ充実の分野とを分けてホームページ部会をブログ研究部会に改めた。

ウェブページやブログを使って、府 S A 連協および各地区 S A の活動をタイムリーに、ビジュアルに、見やすく提供するように努力してきた。

・福祉 I T 部会

I T 技術の利活用により、授産施設で作られる授産製品の販売を支援する福祉ボランティアサイト「福祉夢ひろば」を運営する

①例会、研修会、相互研鑽と勉強会

福祉夢ひろばに掲載する授産施設の更新と新規授産施設の開拓

②授産製品の展示・即売会を実施し、併せて障がい者の社会参加の推進を図った。

③当部会の活動を紹介するパンフレットを更新し、平成 27 年 1 月末情報で発行した。

④ネットワーク・ラボ主催のセミナーで ブログの講習会を実施

・都市環境部会(エコップ部会)

① 部会員 9 名 顧問 1 名の体制で定例会議を偶数月の計画、毎月度は服部緑地公園でのキッズファームプロジェクトの企画、環境関連・防災関連設備・箇所の見学等を折り込んでいたが、樋渡部会長が遠地に 8 月で転居され脱会されたので年度後半活動が停滞してしまった。

② 実績 ・大阪府都市整備部との話し合い ・定例会議 ・服部緑地公園キッズファームプロジェクト参加

ブログ研究部会

「ブログ」で見る府連協の活動

ブログ研究部会長 織田 武文（堺 SA 連協 平成 23 年）

「組織の紹介はホームページで、活動の紹介はブログで」という考え方を基本として、府 S A 連協および各地区 S A のメッセージをタイムリーに、そしてビジュアルに提供するとともに、セキュリティの確保を行った。

【活動目的】

W e b ページやブログを使って、府 S A 連協および各地区 S A のメッセージをタイムリーに、ビジュアルに、見やすく提供するように努力してきた。

【活動報告】

* ボランティアポータルサイトを目指すという目標は未だ道半ばである。

1. 地区の活動紹介のブログ充実のための部会とホームページ充実の分野とを分けてホームページ部会をブログ研究部会に改めた。

ブログ研究部会は年間 11 回開催した。しかし参加者は各回 10 名以内であった。

各回においてはブログレイアウトの工夫、記事の見易さ、簡単な html 言語の学習など熱心な学習が勧められた。

2. 地区活動ブログの定着化は進んでいる。未だ未開設、更新の停滞が見られる。

22 地区 S A のうち 18 地区が開設されている。また、4 地区は 2014 年以前のまま記事の更新がみられていない状況にある。

3. 府 S A 連協、各地区のホームページ（地区の概要）のリニューアルを図ってきた。しかし更新が停滞している地区が半数に上っている。

4. ブログの年間アクセス数は 11,568 度に登っている。（アクセスカウンター設置 12 地区のみ）また、S A 連協の W e b ページには 3,644 度 福祉 I T 部会の W e b ページには 1,388 度のアクセスが見られ、情報発信の効果がある。

【今後の課題】

1. 上記報告中 2. および 3. の状況から地区ブログの開設、更新を促進するためにスキル習得（例会、勉強会）に努める必要がある。

2. より見やすいブログ、Web ページのためにリニューアルを推進していく必要がある。

3. 役に立つブログ記事、情報の迅速な取得に向けて一層の工夫が求められる。

福祉 I T 部会

「福祉 I T 部会のボランティア活動」

福祉 I T 部会長 榎本龍彌（SA いけだ 平成 21 年）

福祉 IT 部会は、ボランティア活動としてホームページで大阪府内の授産施設の製品紹介を無償でしています。

そのために、私たちは「福祉夢ひろば」のホームページを運営し、インターネット環境が備わった大阪市立総合生涯学習センターのネットワーク・ラボで月 1 回の例会を持っています。

「福祉夢ひろば」のホームページに掲載している授産施設は 2015 年 1 月末で 26 カ所、授産製品ショップは 4 店で、昨年末と同じです。年度初めの目標値（授産施設とショップを合わせて 35 カ所）は未達に終わりました。

ホームページへの掲載に加え、各種イベント時にブースを確保し、授産製品の展示・即売も行っています。今年度は 9 月 14 日に開催された「全労済創立 60 周年記念」への参加を皮切りに、10 月 19 日に万博公園で開催された「トラックフェスタ 2014」、11 月 23 日に大阪市立総合生涯学習センターで開催された恒例の「総合フェスタ 2014」、2015 年 2 月 12、13 日にメイスアターで開催された「高大同窓会文化祭」、2015 年 3 月 9 日に北区民センターで開催された「アクティブシニア・フェスタ 2014」で、私たちメンバーが授産製品の展示と販売の代行を行い、授産施設自身による出店と販売もしていただきました。年度初めの目標値（4 つのイベントに参加）を 1 つ上回り、いずれもかなりの売上を達成し、施設の皆様に喜ばれました。

併せて、各イベントに多数の障がい者が参加して、販売の立会い、他の展示の見学と一般の方々との交流を行い、さらに、今年度は初めての試みとして授産施設による紙漉き実演と来場者の紙漉き体験を実施し、障がい者の社会参加の推進を図ることもできました。

また、大阪市立総合生涯学習センター主催の「ネットワークサロン」で「簡単にできるブログ」と題して入門講座（2014 年 11 月）とステップアップ講座（2015 年 3 月）を開催し、多くの方々に受講していただきました。

これからもさらに活動を広げ、地域の多数の授産施設が参加されることを願っています。



広報誌部会

「広報（広報誌）で SA フアンづくり」

部会長 大川 正彦（SA 藤井寺 平成 18 年）

①広報誌発行

- ・校友会誌「れいんぼー絆」

年 4 回発行下記スケジュール。26 年度よりブロック活動・連協本部主催活動に変更又紙面も 1 記事 1 面使用し内容を深堀する

- ・シルバー通信発行

年 1 回発行予定も検討会議で結果報告だけでなく新年度計画も網羅した内容充実に決定。新年度計画出るのが新体制固まる 5 月になり、今期の発行を見合わせ延期となる。

②対外 PR チラシ発行及び対外フェスタに参加、パネル展示。

- ・NPO 大阪府高大文化祭参加プレゼン。
- ・NPO アクティブシニア・フェスタ参加プレゼン。
- ・地区 PR チラシ作成推進（下記展示）



アクティブシニア フェスタ会場



高大文化祭会場

	2014.7.	2014.10.	2014.12.	2015.4.	2015.1.
計 画	校友会機関誌 「れいんぼー・絆」 発行	校友会機関誌 「れいんぼー・絆」 発行	校友会機関誌 「れいんぼー・絆」 発行	校友会機関誌 「れいんぼー・絆」 発行	シルバー通信 原稿依頼
実 績	・SA理事会で見本 配付 ・各地区にネット 配信 ・掲載地区には会員 数引渡し	・左記同文 ・26年度から記事を ・地区ブロック活動 と・連協主催活動に 変更	・左記同文 ・左記同文	・左記同文 ・左記同文	広報委員会で検。 従来の活動報告に 活動計画を加えた 再編集の為発行を 6月に延期決定。
記 事	1面・SA 寝屋川 ・SA 四條畷 2面 ・SA 松原会 ・SA はびきの 3面・SA 富田林 ※地区活動紹介	1面・ATC おもちゃ フェスタトライアル 紹介(大阪市 SA) 2面・SA ひらかた カーリンコン活動 3面・大阪市 SA 福祉活動紹介	1面・ATC おもちゃフェスタ ・3ブロック参加 2面・中ブロック 歌体操交流会 3面・南ブロック 歌体操交流会	1面・ATC 歌体操フェスタ ・3ブロック参加 2面・アクティブシ ニア・フェスタ参加 福祉 IT 3面・北ブロック 歌体操交流会	・各職能の年間活動 報告 ・各職能の年間活動 計画 ・平成 27 年 6 月発行 予定 (原稿依頼)

都市環境部会

都市環境部会長代行 和佐 義顕 (SA いけだ 平成 19 年)

＜エコップ部会＞ 部会員 7 名 顧問 1 名

1、「活動計画」 当初 部会員 9 名 (2 名退会で現在 7 名) 顧問 1 名でスタート。

- ・定例会は、偶数月に計画、毎月は、服部緑地公園でのキッズファームプロジェクトの企画会議に参加。環境関連、防災関連設備等の見学会を織り込んでいたが、樋渡部会長の転居による退会があり、年度後半の活動は、停滞した。

2、「活動実績」

①大阪府都市整備部との意見交換—— 4 月 18 日、 9 月 22 日 の 2 回

(主たる内容)・花いっぱい運動 ⇒ 吹田市内の小学校で実施中 (茨木土木事務所管内)

- ・水辺の学校
- ・防災備蓄倉庫の管理 ⇒ 地区土木事務所 にて管理。(府内 3 か所)
- ・地域安全委員会
- ・広報活動—— 『大阪府都市整備部』 の HP を SA 連協 HP にリンクする予定

②定例会議 —— 4/10 6/13 8/25 9/22 12/19 2/11 3/19 (計 7 回)

③キッズファームプロジェクト (服部緑地公園)

5 回シリーズ; 6/7 (さつまいも植え付け、ジャガイモ掘り)

7/26 (夏野菜の収穫と畑の世話)

8/23 (さつまいものつるを食べてみよう)

9/27 (畑の世話、落花生の収穫)

11/8 (さつまいも掘り、やきいもを食べよう)

*課題; 1) 部会員の確保——ブロックより推薦

2) 活動をブロックへ展開していく。個人から地域へ。

以上



支援活動部

地 区 支 援 活 動

支援活動部長 木場昭和子 （大阪市 SA 連協 平成 18 年）

1. 助成金について

平成 26 年度は、「大阪府地域福祉振興助成金」の助成金を獲得することが出来た。

「独立行政法人 福祉医療機構（WAM）」の助成金は、残念ながら 6 月発表では不採用であったが、8 月に 2 次募集があり、再度申請書を提出し 9 月に内定書を頂き新たな気持ちで活動を開始した。

今回の活動は「平成 26 年 8 月 1 日～平成 27 年度 3 月 31 日」までの 8 ヶ月間である。

短いスパンではあったが、地区研修会、中央研修会、高齢者施設へのボランティア活動の活性化を図ることが出来た。

2. 中央研修会の開催について

支援活動部は、次期リーダーの育成と、歌体操ボランティアのスキルアップ、高齢者施設での訪問活動の活性化に取り組んできた。毎月 1 回（第 2 木曜日 13:30～15:30）に開催される中央研修会では、3 ヶ月に 1 度外部講師の指導を受けている。その後を支援活動部の専任講師がフォローアップをして、地区 SA につなげていく。外部講師の研修会の際ビデオに撮り DVD にして、希望者に頒布している。それを見ながら練習をすることで、各ブロック交流会、歌体操フェスタ等で、新しい曲目を発表することが出来るのも、楽しみの 1 つと言えよう。現在 12 地区から 36 名の受講者が参加している。その方達が熱心に取り組み、歌体操のレベルが格段に上がりつつある。

3. 地区研修会について

中央研修会の受講者の中から、選抜された地区講師によって地区研修会が開催されている。各地区の高齢者介護施設への訪問活動も、この中央研修会の受講生を中心に活発に展開されている。この 1 年間を振り返ってみると、地区講師が 2 名増えている。また、それぞれの地区で、新規高齢者施設ボランティアの開拓にも力を入れて頂き、8 ヶ所増やすことが出来た。

4. 高齢者施設訪問活動のアンケートについて

2 月に高齢者施設へ訪問活動に行っている人をお願いをして、高齢者施設の方にアンケートに答えていただいた。そのアンケートを拝見すると、施設の方から大変よい評価を頂いている。施設訪問をして、利用者の皆様とコミュニケーションをとりながら、交流をしていることが、読み取れる評価である。毎月提出される活動報告によっても、施設の方と色々お話をしている内容が伝わってくる。

今後も新規施設の開拓に働きかけていきたいが、ボランティアの人員にも限度がある。

歌体操を始めて頂ける地区を増やしていくことが、大きな課題である。

平成 26 年度 大阪府 SA 連協 会計決算

会計 高林 光睦 (SA 四條畷 平成 20)

<期間：平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日> (単位：円)

項 目	24 年度実績	25 年度実績	26 年度予算	26 年度実績
(収入の部)				
前年度繰越金	134,953	95,669	50,899	50,899
会費	190,400	177,200	170,000	180,400
雑収入	9,000	1,900	0	0
利息	35	37	35	31
歌体操会員会費				22,000
おもちゃ部会受講料				9,600
ATCおもちゃイベント				180,000
合 計	334,388	274,806	220,934	442,930
(支出の部)				
活動費	27,500	24,000	12,000	20,000
負担金	25,920	32,290	32,000	32,216
事務費	93,144	57,704	58,000	45,416
研修費 歌体操部会	43,356	26,000	40,000	15,000
研修費 おもちゃ部会				23,000
ブログ研究部会	13,105	23,605	25,000	13,083
福祉IT部会	0	18,000	18,000	13,600
広報「シルバー通信」	16,972	18,418	18,000	0
広報「れいんぼー・絆」	17,625	16,890	17,000	26,302
予備費	1,094	70,000	934	0
ATCイベント交通費				82,000
ATCイベント材料費				19,802
小 計	223,719	223,907	220,934	290,419
次年度繰越金	50,899	50,899	0	152,511
合 計	334,388	274,806	220,934	442,930

<特記> 事業計画テーマで収入が得られそうなものについては収益計画を検討し実施する

会計監査報告書

上記会計に関する帳簿、証拠書類、預金通帳、現金等につき監査の結果、適正に的確に処理され正確であることを証します。

平成 27 年 4 月 1 日

会計監査 松田 嘉威

会計監査 福武 勝彦

27 年度活動計画について

事務局

事務局長 森 田 一 夫 (SA とよなか 平成 18 年)

今年度の活動方針は、地区 S A 再生への貢献に重点を置きます

府 S A 連協は、900 名余の会員を擁していますが、連協を構成する 22 地区 S A を個別に見ると会員数が 50 名以上の 6 地区に過ぎず、20 名以下が半数となっています。

各地区 S A は、会員の高齢化が進み退会が増える一方で、新規に入会される会員の減少もあり会の維持に苦しんでいるのが多くなっています。

各地区 S A の再生に取り組むことが、連協の活動維持のためにも必要になっています。

連協は、その実効をあげられるように、本協議会の体制や運営の在り方まで踏み込んで改革を行って行きたいと考えます。

1) 地区 S A の再生に取り組む。

- ・地区 S A の現状と課題を把握し、その課題解決に取り組む。
- ・地区 S A での有効活動や資金活動等を発表し合い、一緒になって課題解決に取り組む。

2) 行政機関や外部関連団体に積極的に働きかけ、SA 会員増と地区 SA の再生に寄与する。

- ・S A を所轄している大阪府福祉部高齢介護室に地区 S A の実態を訴え、地区 S A の再生の方策について協議する。
- ・N P O 法人大阪府高齢者大学校(以下「高大」という)、N P O 法人大阪区民カレッジ(以下「区民カレ」という)、及び N P O 法人大阪府北部コミュニティカレッジ(以下「ONCC」という)の S A 養成講座に積極的に参画し、受講生に S A 活動の正しい理解と素晴らしさを伝え、入会者を増やす仕組み作りをする。
- ・高大の修了生が、高大同窓会の各地区支部へ入会される率も 8 % 前後と低く、S A だけでなく校友会を通じて方策を練っていきます。

3) 地区 S A 間の交流支援

- ・北、中、南の 3 ブロック制を継承し、引続き地区 S A 間交流の拡充を図る。
- ・各部会への各地区からの積極的な参加により共通のテーマへの取り組みを通じて地区 S A の連携を強めて行く。
- ・また、これらの活動を支援するために支援活動部会を中心に各種助成金の獲得に努める。

活動負担の公平化を図ります

会員数の減少は、組織の停滞となり、役員のなり手不足につながります。これまで連協の運営のために毎月 1 回の理事会と役員会が別の日に行われてきましたが、月 2 回の会議出席が厳しくて役員を固辞される方もありました。

7 月から理事会の後に役員会を行うことになりました。このため、理事会の後に行われていたブロック交流会等が理事会の日の午前に行なわれることになり、理事の皆さんには負担を掛けることになってしまいますが、ご理解、ご協力をお願いいたします。

渉外部

渉外部長 松田 嘉威 (SA はびきの 平成 19 年)

1、活動目的

行政機関（大阪府、各市町）や外部関連団体と情報交換、各地区 S A の現状報告、友好関係を維持し、大阪府 S A 連協として、地区 S A と共に発展、活動の幅を広げる窓口として役割を担う。

2、活動計画

行政機関としては、大阪府高齢介護室介護支援課地域支援グループ、(財)大阪府地域福祉財団等を府 S A 連協（笹原、松田、島貫）が担当、市町村については各地区 S A で担当し、必要がある場合は府 S A 連協が支援する。外部関連団体は、次の 5 団体である。

- ①高大・校友会～毎月原則第一水、13 時～15 時、高大、(松田)、校友会（笹原、松田）
- ②区民カレッジ～不定期（大阪市 S A 連協）
- ③ONCC～不定期、～島貫（茨木教室）、森田（豊中教室）
- ④SA ネット・大阪～毎月第 4 月、午前、笹原（会計監査）
- ⑤大阪アクティブシニア協会～奇数月第 4、(木)、笹原、代理 OK,

3、部会活動

- 1) 福祉 I T 部会福祉夢ひろばのホームページ運営、各授産施設の製品販売支援他福祉活動を行う。
- 2) 都市環境部会～地域の環境改善に目をあて、府都市整備部との啓発活動を行う。
- 3) 対外折衝部会～府 S A 連協平成 2 年発足以来、平成 20 年 S A 講座終了、以降高大生の入会激減し、各地区 S A 会員減り、苦勞している。府担当者に現状提起する。渉外部長、特命担当役員が主として、取り組む。

福祉 I T 部会

部会長 榎本龍彌 (SA いけだ 平成 21 年)

【活動目的】

IT 技術の利活用により、授産施設（障がい者のための福祉事業所）の認知度を高め、併せて授産施設で作られる授産製品の販売を支援する福祉ボランティア活動を行う。

そのために、サイト「福祉夢ひろば」(<http://fukushi2yume.web.fc2.com>) を運営する。

【活動計画】

①掲載授産施設 / ショップの拡充と掲載ページの充実

- ・大阪府内の各地域の授産施設を広く掲載することを目指し、部会員／サポーター全員が近隣の授産施設／授産ショップを訪問して、「福祉夢ひろば」の活動とサイトを紹介し、「福祉夢ひろば」に掲載する授産施設／授産ショップを募る。
- ・掲載を希望する施設／ショップのページを作成し、必要なリンクを設定し、公開する。
- ・掲載ページの更新をきめ細く行い、掲載情報の鮮度を保つ。

②部会員／サポーターの活動能力のレベルアップ

- ・例会を月 1 回開催し、福祉ボランティアの実践に関する相互研鑽とページ作成技術を高めるための勉強会を実施する。具体例に基づき、ページ作成のテンプレートを活用し、ページ作成の実体験を積む。

③各種イベントで授産製品の展示・即売会を企画・実施

- ・大阪府内で開催されるイベントに 4 回以上参加し、「福祉夢ひろば」のサイトに掲載している授産施設の製品を展示／販売する。
- ・上記展示・即売会に授産施設の利用者（障がい者）の方々の参加を呼びかけ、障がい者の社会参加の推進を図る。

④外部関係機関との連携と広報活動

- ・大阪市立総合生涯学習センターのネットワーク・ラボに加入し、学習センター及びラボ加団体との連携を図るとともに、ラボ主催の大阪市民向け講座(ネットワークサロン)で「ブログ講座」を開催する。
- ・「福祉夢ひろば」のパンフレットを定期的に更新する。
- ・「福祉夢ひろば」のブログにタイムリーに活動記事を掲載し、内部の情報共有と外部への広報に活用する。
- ・大阪府並びに府内各市の社会福祉協議会との連携を図る。
- ・各種イベントで授産製品の展示・販売と併せて、「福祉夢ひろば」の活動を紹介する

都市環境部会（エコップ部会）

部会長代行 和佐 義顕（SA いけだ 平成 19 年）
（部会員 6 名・顧問 1 名）

【活動目的】

私達の住んでいる地域の環境に目をやり、住みよい地域、幸せな地域づくりに、啓発活動を通して、貢献することを目的とする。

【活動計画】

- 1、定例会；大阪府都市整備部との意見交換会を含み、隔月開催を基本とする。
- 2、行事；1）第 4 回キッズファーム（5 回）への参加協力（於・服部緑地公園）
⇒ 5/30 7/25 8/22 9/26 10/31（各土曜日）
2）あすなろプロジェクト・花端会議に参加協力（於・服部緑地公園）
3）見学会；①地下河川の見学 ⇒ 寝屋川流域
②大阪府防災備蓄倉庫の見学⇒万博公園付近（茨木土木事務所管理）
他に実施済みの 大阪市立阿倍野防災センターの見学
- 3、啓発活動
 - 1）SA 連協 理事会で大阪府の環境問題をプレゼンする。
⇒ SA 講座の都市環境コースで学習した内容（遠藤顧問提供の CD・USB 使用）
 - 2）各地区でのイベントへの参加協力支援活動

⇒ 環境テーマに合わせて、展示や製作を通じて啓発活動につなげる。

【課題】

- 1) 部会員の確保⇒ 各地区 SA 等関心度に温度差があり、全体活動に繋がっていない現状から部会の存続問題になる。ブロック内地区 SA より会員を推薦してもらう。
- 2) ブロックでの対処可能な地域土木事務所との協働の検討⇒地区から地域への展開

対外折衝部会

対外折衝部会長 松田 嘉威 (SA はびきの 平成 19 年)

昭和 63 年に SA 講座第 1 期生始まり、修了生が平成元年に地区 SA 立ち上げ平成 2 年 11 月大阪府 SA 連協が発足しました。平成 16 年には南部講座開設も平成 20 年知事交代により大阪府運営講座が終了、その後流れを絶やさぬための NP0 高大、NP0 ONCC、NP0 区民カレッジが順次開講した。しかしその修了生が我々の仲間に入る事が少なくなっている。

大阪府 SA 連協 25 年の経過を振り返るに、先輩、先人のご努力、貢献により現在継続しているが、会員数の減少が深刻な問題になって来ている。

会員資格も SA に限らず、一般市民にも開放しているが、高大修了生の獲得が優先して取り組むべき課題と考える。この現状を大阪府担当者に提起し SA コースの認定、SA 称号認定の要件は何なのかを再確認し、会員獲得の途を作る必要が有る。

対外折衝部は固定の部会員は置かないが、渉外部長(松田)が部会長兼任し特命担当事務局次長(島貫)他、全員の力を結集して取り組む事とし協力を依頼する。

交流活動部

交流活動部長 木場 昭和子 (大阪市 SA 連協 平成 18 年)

【活動目的】

- ・各地区 SA 相互の交流を活性化し、交流活動部の組織力の強化を図るため、助成金の獲得に努める。

【活動計画】

1. おもちゃ部会、歌体操部会、支援活動部会の勉強会、研修会を実施し、技術の向上を図る。
 - ①歌体操部会は、毎月 1 回 第 4 (月) に開催する。
 - ②おもちゃ部会は偶数月 (第 2 火曜日) に 1 回開催する (おもちゃ教室は、奇数月 (第 3 火曜日) に 1 回開催に参加する。)
 - ③支援活動部会は (時期リーダー育成のため) 毎月 1 回 (第 2 木) に中央研修会を開催する。
2. おもちゃ部会、歌体操部会の (北、中、南) ブロック交流会を年 1 回開催する。
おもちゃ地区別ブロック交流活動 (北、中、南) は、各地区で実施して交流する。

3. 全体のイベントとして、「大阪府 S A 連絡協議会歌体操フェスタ 2016」を 3 月頃開催する。
大阪府下全域から、出演者を募集する。
4. カーリンコン同好会のメンバーを募り月 1 回は開催する。

歌体操部会

歌体操部会長 藤川 安高 (SA 吹田 平成 19 年)

【活動目的】

歌体操の会議と研修実技を通して各地区の歌体操の技術の向上をめざし、末端まで普及を図っていき中央研修会とも連携して地域活動の活性化を図りたい。

【活動計画】

- 1、 部会は毎月一回 年 1 2 回 第 4 月曜 午前 1 0 時から 1 2 時
前半会議と後半に実技研修を行う。
- 2、 地域親睦と活性化を図る上でも各ブロックの交流会を年 1 回は実施。
- 3、 そしてその集大成を大阪府下の歌体操仲間と SA 連協歌体操フェスタ 2016 を翌年 3 月には実施予定。
- 4、 部会活動の運営費を負担するため一部を有料化出来ないか検討する。
- 5、 他の行事、アクティブシニアフェスタの演芸部門等に部会として積極的に参加していく。

おもちゃ部会

おもちゃ部会長 島田 道子 (SA 守口 平成 14 年)

【活動目的】

各地区の活動の活発化、情報共有を図る事と共に親睦を深めたい。

【活動計画】

毎月 1 回 実施をおもちゃ部会で検討した結果 従来どおり隔月 1 回が
適当であると決定。部会員の活動の実践場所を広げる。イベントなど
に部会として参加できるようにしたい。

会場： 大阪社会福祉指導センター 地下 1 階

開催： ・おもちゃ部会 偶数月 第 2 火曜日 PM 1 : 3 0 ~ 3 : 3 0
・おもちゃ教室 奇数月 第 3 火曜日 PM 1 ; 3 0 ~ 3 ; 3 0

役員： 副部会長 書記 会計を各ブロック代表で決定

講師： なるべく各 ブロック (南 中 北) ごとに講師をお願いする。

会費： 昨年度と同様に 1 回 200 円 徴収

支援活動部会

支援活動部会長 木場昭和子 （大阪市 SA 連協 平成 18 年）

【活動目的】

1. 部会活動の活性化と、中央研修会、地区研修会を実施して、高齢者施設へのボランティア活動の推進を図る。

【活動計画】

1. 部会活動を強化するため、助成金の獲得に努める。☆現在助成金申請中
2. 歌体操中央研修会を毎月 1 回開催して、地区研修会のできるリーダーを養成する。
 - ① 3 ヶ月に 1 回位、外部講師をお招きして、研修会を開催する。
 - ・ 外部講師の研修会をビデオに録り、DVD にして希望者に頒布する。
 - ② 高齢者施設ボランティア活動の実践。
 - ・ 高齢者ボランティア活動の新規開拓を図る。
 - ・ 質の高いボランティア活動を目指す。
3. おもちゃ部会員のボランティア活動の、実践場所を確保する。
おもちゃ部会員と話し合い、毎月おもちゃ部会を開催できないか検討する。

広報部

広報部長 織田 武文（堺 SA 連協 平成 23 年）

【活動目的】

- ・ 府 SA 連協と地区 SA そして地域の架け橋となる広報活動を目指す。
- ・ 広域活動、助成金情報のホームページ、ブログなどによる共有化をはかる。

【活動計画】

- ・ 広報誌「シルバー通信」を年 1 回発行タイムリーな広報については、ホームページ・ブログ等の Web 情報を活用する。
- ・ 共同機関誌「れいんぼー・絆」の発行に参画、寄稿する。連協ホームページのリニューアルを実施する

ホームページ管理部会

【活動目的】

- ・ 府 SA 連協の情報の交差点としてのホームページをめざす
- ・ ホームページの刷新を図る

【活動計画】

- ・ ホームページ掲載事項の監修並びにコンテンツの発掘
- ・ 各地区 SA のホームページ（地区 SA の概要）の刷新

広報誌部会

部会長 大川 正彦 (SA 藤井寺 平成 18 年)

【活動目的】

- ・情報誌・PRチラシ等の文書情報での情報発信
- ・SAファンづくり (情報誌・PRチラシ等)
- ・各地区SAの活性化、先進活動の共有化 (PP, ネット等) プレゼン

【活動計画】

- ・共同機関誌「れいんぼー・絆」発行年 4 回。下記スケジュール。
- ・府SA連協「シルバー通信」発行年 1 回。下記スケジュール。
- ・府SA連協対外PRチラシ、プレゼン資料作成・フェスタ参加年 2 回。
 - ・アクティブシニア協会フェスティバル
 - ・大阪府 NPO 高大祭・交流会

	共同機関誌「れいんぼー・絆」発行予定(案)				シルバー通信
	NO-1 (7 月)	NO-2 (10 月)	NO-3 (1 月)	NO-4 (4 月)	6 月発行予定
案内日	27.6.	27.8.	27.11.	28.2.	27.4.・27.5
1 面	府 SA 連協	府 SA 連協	府 SA 連協 2	府 SA 連協	◇対象組織 ・各委員会 ・各部会 ・本 部
2 面	中ブロック	南ブロック	北ブロック	中ブロック	
3 面	中ブロック	南ブロック	北ブロック	中ブロック	

ブログ研究部会

部会長 織田 武文 (堺 SA 連協 平成 23 年)

【活動目的】

ブログを使って、府SA連協および各地区SAの日常活動をタイムリーに、ビジュアルに、見やすく提供する。そのためにすべての地区SAにブログを開設する。

【活動計画】

- ・地区活動ブログの定着化とスキル習得 (例会、勉強会) に努める。
- ・府SA連協、各地区の「ホームページ」の更なる刷新、拡充をはかる
- ・SA会員のグループや個人のブログ、ホームページの紹介できるようにする。
- ・地区活動ブログと地区会報との連携 (*活動ブログのペーパー版が会報に) はかる。

平成 27 年度 大阪府 SA 連協 会計予算

会計 高林 光睦 (SA 四條畷 平成 20 年)

項 目	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	
	実 績	実 績	予 算	摘 要
(収入の部)				
前年度繰越金	95,669	50,899	152,511	
会費	177,200	180,400	180,000	200 円×900 名
雑収入	1,900	0	200	SA吹田より
利息	37	31	35	
歌体操会員会費		22,000		
おもちゃ部会受講料		9,600		
ATCおもちゃイベント		180,000		
合計	274,806	442,930	332,746	
(支出の部)				
活動費	24,000	20,000	20,000	
負担金	32,290	32,216	32,000	
事務費	57,704	45,416	60,000	
研修費 歌体操部会	5,000	15,000	37,000	5,000×3 ブロック+注1
研修費 おもちゃ部会	21,000	23,000	16,600	5,000×3+注2
ブログ研究部会	23,605	13,083	15,000	
福祉IT部会	18,000	13,600	13,600	
広報「シルバー通信」	18,418	0	35,000	
広報「れいんぼー・絆」	16,890	9,744	15,000	
広報 高大PR資料	7,000	16,558	10,000	
校友会 しおり負担金		0	5,000	
ATCイベント経費		101,802		
予備費			15,000	
合計	223,907	290,419	274,200	
次年度繰越金	50,899	152,511	58,546	

注1 歌体操会員会費の本会計への繰入れは中止するものとし、昨年度に繰入れた 22,000 円を27年度の研修費として上積みする。

27年度決算において予算全額を執行しなかった際は、残額を28年度研修費に繰越すものとする。

注2 おもちゃ部会受講料の本会計への繰入れは中止するものとし、昨年度に繰入れた 9,600 円から講師料として支払われた 8,000 円を差引いた 1,600 円を27年度の研修費として上積みする。

大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会の組織が改組されました

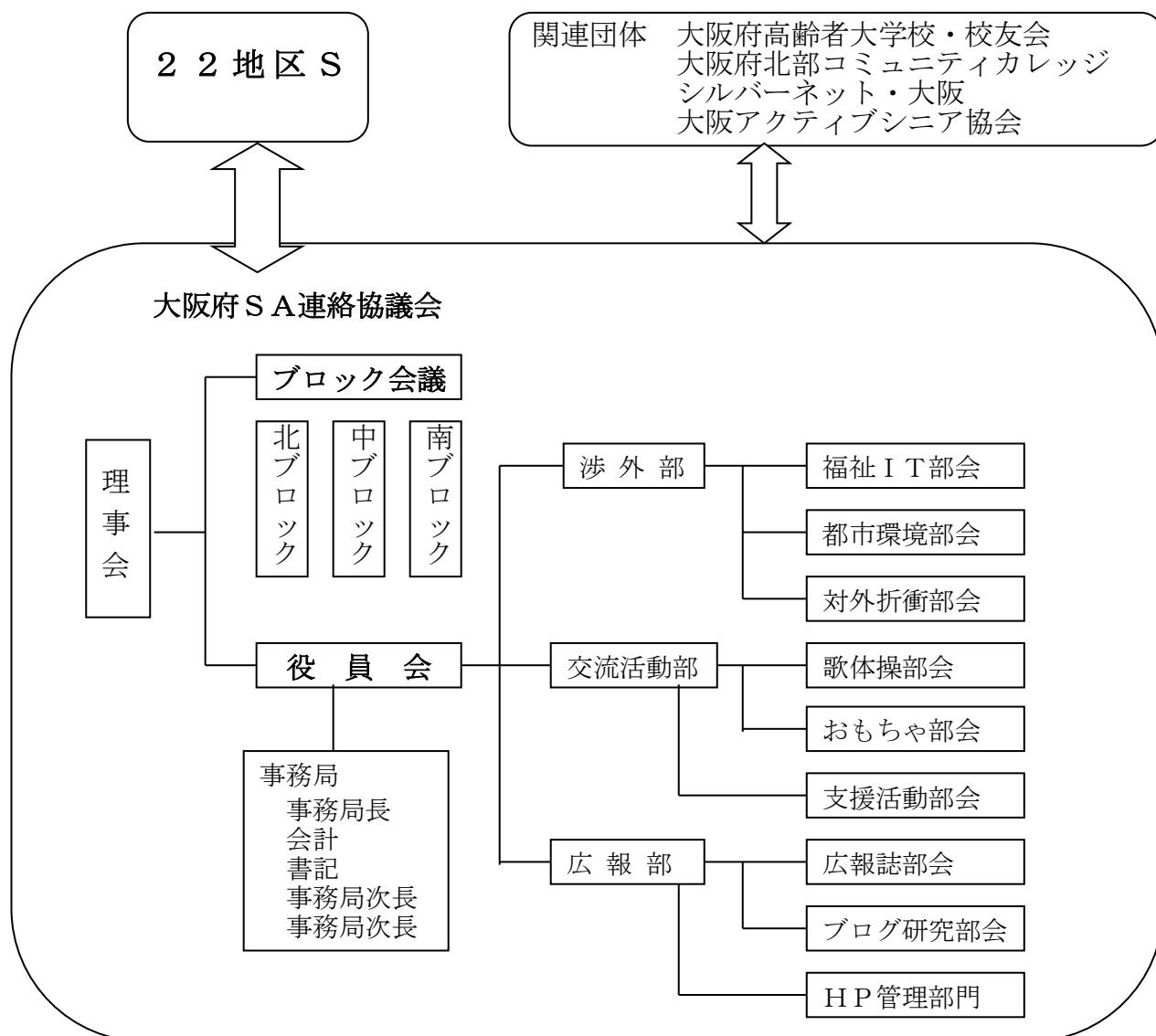
事務局長 森 田 一 夫

この度、府S A連協の会則を実態に近いものに見直すにあたって、組織の見直しも併せて行われました。

改定のポイントは、次のとおりです。

1. 「委員会」を「部」と変更する。
2. 企画委員会は、歌体操とおもちゃを主とした行事の調整が主であり、また、これらは外向けの事業というより会員の親睦とスキルアップを狙ったものであるので「交流活動部」とする。
3. 福祉 IT 部会と都市環境部会が広報委員会に組み込まれていたが、この 2 部会は外部団体との交流によって活動されているので、渉外部に組み込む。
4. 「支援活動部」が委員会とは別に設けられていたが、これは交流活動等の資金を獲得することが主たる目的であるので、交流活動部の下の部会とする。
5. 「企画」の文字が組織図から消えるが、企画は役員会の任務とする。

組 織 図



地区SAだより

大阪市 S A 活動情報

いきいき歌体操輝くバラの会平成 26 年 10 月 29 日表彰

いきいき歌体操輝くバラの会 会長 梶山良子



・高齢者を対象とした比較的軽いスポーツの歌体操が大阪府下盛んに行われています。大阪市 S A 連協に所属している、いきいき歌体操輝くバラの会の方々が、橋本 徹 大阪市長から長年にわたるボランティア活動に対して表彰されました事報告を致します。

(大阪市 SA 会長・新鞍 清彦)

S A 藤井寺 活動情報 (藤井寺ほのぼのサロン)

・大阪府の生きがいワーカーズ事業 (S A 修了者) として常設サロンを設立。S A 藤井寺が継承高齢者への I T 支援活動発足後 11 年。平成 22 年には大阪府の推薦で日本生命財団より 50 万円の助成を受けスキルアップを図る。現在 22 期生支援中… (文化サロン) も併設。

(S A 藤井寺会長 大川 正彦)



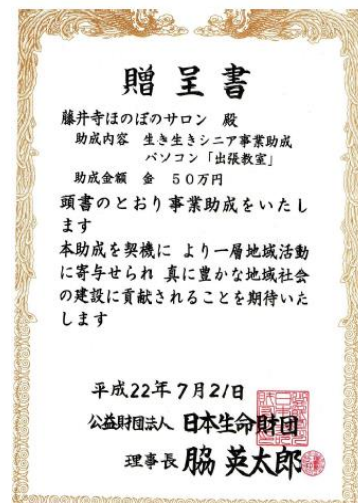
大阪府シルバードパイザーの大川正彦さんらが運営する「藤井寺ほのぼのサロン」(藤井寺市林 5-15-19)のパソコン教室が 23 期生を募集。初心者歓迎！便利なエクセルもこの機会に学びませんか？

どちらも受講料 200 円 (テキスト代)

講座名	日時	定員
・パソコン体験教室 (2 日コース) ・AM コース ・PM コース	5/25 (月)、6/1 (月) ・AM コース 10:00 ~ ・PM コース 13:30 ~	12 名 60 歳前後の パソコン初心者の方
・Excel 体験教室 (1 日コース) ・AM コース ・PM コース	5/22 (金) ・AM コース 10:00 ~ ・PM コース 13:30 ~	12 名 60 歳前後の 文字入力のある方

申込先 株式会社 EAY 〒577-0855 大阪府津田

中高年パソコン体験教室開催！



S Aはびきの 活動情報

読売新聞全国版（H27 年 1 月 14 日）に記載されました「体力続く限り通学路に立つ」松田嘉威さん（S Aはびきの会長）の記事を紹介します。

体力続く限り通学路に立つ

大阪府羽曳野市

松田 嘉威さん 71

60歳を過ぎ、定年を迎えてまもなく、胃がんが見つかりました。長年の仕事の疲れが出たのでしょうか。幸い元気に

なりましたので、今度は社会に恩返ししたいと思い、大阪府の「シルバーアドバイザー養成講座」を受講してボランティアに取り組んでいます。今は地元の小学校の校長先生と話し合い、通学路で子どもたちの見守りを続けていま

す。小さな1年生も、最近「おじさん、今何時？」と聞いてくれたりします。親しみと信頼の証しと思い、私も正確に「何時何分何秒」と答えたりします。

子どもたちとの何気ない会話、交わす笑顔が、私にも元気をくれます。

△銀も金も玉も 何せむにまされる宝 子にしかめやも▽。私の好きな山上憶良の歌です。体の続く限り、通学路の交差点に立ち続けたいと思います。

登 下校の時間、そろいのベストやジャンパーを着て、通学路を見守っている方々に出会います。お二人のように、皆さん「社会への恩返し」と考えて取り組んでおられるのでしょうか。頭が下がります。子どもたちとの微笑ましいやりとりも目に浮かぶようですね～。かなり、うらやましくもあります。

（編集委員 保高芳昭）



シルバーアドバイザー憲章

- 1、私たち、シルバーアドバイザーは
永年にわたって貴重な知識や経験、技術を培ってきたことに高い誇りを持ち、絶えず自らの生き甲斐の高揚に努めます。
- 2、私たち、シルバーアドバイザーは、
永年にわたって培ってきた貴重な知識や経験、技術を活かしながら地域福祉活動を推進してゆくことに努めます。
- 3、私たち、シルバーアドバイザーは、
常に人格・職見の向上と活動行いうえに必要な知識や技術の修得に励み、社会の信頼を得られるように努めます。
- 4、私たち、シルバーアドバイザーは、
活動に際して、知りえた他人の秘密を漏らしたりすることがないように十分に注意します。
- 5、私たち、シルバーアドバイザーは、
シルバーアドバイザーの称号を悪用したり、乱用したりすることがないように十分に注意します。



大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会

編集後記 S A連協便り発行に時間を要した。今号より全会員に新年度計画も届く様に年度活動報告に併せ新年度計画（+地区トピックス若干）を 26 年度理事会で決定。

- ・その為新役員体制、新年度計画が纏まるのに時間がかかった…
- ・H24 年～26 年の 3 年間松本理事長お疲れ様でした、三つの課題を乗り越え次年度の新たな課題をスムーズに新体制に託する事が出来ました事に有終の美を感じる。
- ・和親一致で新たな課題を引き継ぐ笹原新理事長「地区の再生への貢献」をスローガンに力強い前進を期待したい。
- ・編集担当が体調くずし、集計・編集・校正・印刷の最終段階で予定遅れ会員に届けるのが遅れた事お詫び致します。 M. O